東京国立博物館ニュース

第696号
展示と催し物案内

2009 8/9 月号

2-3 ◎特別展「染付――藍が彩るアジアの器」
4-5 ◎第62回式年遷宮記念 特別展「伊勢神宮と神々の美術」
次回特別展予告
6 ◎表慶館 アジアギャラリー
7-10 ◎平常展見どころ案内 2009年8月・9月
重文 後三年合戦絵巻
特集陳列「聖母像の『到来』」／特集陳列「中国書画精華」／
特集陳列「中国漆工」／特集陳列「古写真―小川一真と近畿社寺宝物調査―」／
特集陳列「世界と日本」／特集陳列「趙之謙とその時代」／国宝 地獄草紙／
国宝 竹斎読書図／猫のすゞみ／重文 麗子微笑／重文 大日如来坐像
11 ◎教育普及事業
12-13 ◎親と子のギャラリー「日本美術のつくり方」／上野の山でクマめぐり
14-15 ◎INFORMATION ◎TOPICS
16 ◎2009年8月・9月の展示・催し物

染付

――藍が彩るアジアの器

SOMETSUKE ―
The Flourishing of Underglaze
Blue Porcelain Ware in Asia

つかって楽しむ染付

染付は食卓の万能選手。和にも洋にも大活躍します。あなたなら何を盛る？　何と取り合わせる？展覧会では、染付をつかったテーブルセッティングを提案します。

日用の器、染付

白い地にコバルトブルーが美しい「染付」の器は、爽やかで涼しげです。夏の暑さも、ふっと薄らぐようです。中国で生まれた「染付」は、成形した白磁胎にコバルトで装飾を施し、透明釉を掛けて高温で焼成したもので、陶器に比べて軽くて丈夫であり、見た目にも美しく清潔感があるのが最大の魅力です。十四世紀、元時代の景徳鎮窯で完成され、皇帝や貴族のための高級食器だけでなく、大量生産されて庶民の日用の器としても浸透してゆきました。さらに、日本をはじめとする周辺の国々へ輸出され、各地の食文化や製陶にも影響を与えました。もちろん、現代の私たちにとっても、和洋どちらの食器にも使うことのできる「染付」は万能です。親しみやすさや値段の手ごろさから愛好者の多いやきものとしても知られています。

最近、テレビや本、雑誌などでは、各種料理や食材を特集するだけではなく、器を取り上げることも多くなったようです。骨董屋さんで見つけた古いお皿、現代作家のつくるおしゃれな器……。そういったものを扱うお店を紹介したり、お気に入りの器をテーブルコーディネートする方法をうたう記事は、料理好きややきもの好きの方にはたまらなく楽しいものではないでしょうか。

一方、孤食、飽食の時代といわれ、食べ物に正面から向き合うことなく、短時間に食事を済ませることができる現代の生活は、どこか味気なくさびしいようにも見えます。料理や器に注目が集まるというのは、こうした社会背景の裏返しとも考えることができるでしょう。「やきものをどう見たらよいのかわからない」このような声が、若い世代の来館者からよく聞かれるのも事実です。

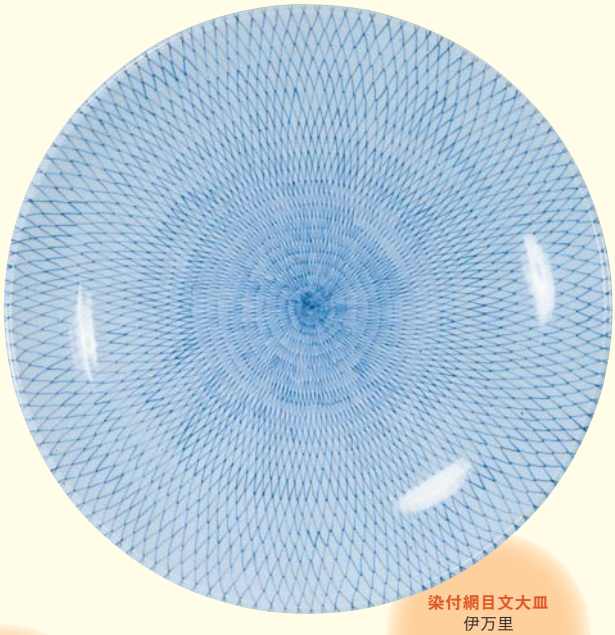
縞揃女弁慶 松の鮨 歌川国芳筆 江戸時代・19世紀
女が手にしているのは染付の皿。傍らの棚の中にも染付の器が見えます。江戸の人々の日常でも染付が活躍していたことがわかります（参考図版　この作品は「染付」展では展示されません）

盛り付けで遊ぶ

やきもの、特に「染付」の飲食器を身近なものとしてご覧いただきたい。この思いから、器のテーブルセッティング、ディスプレイに取り組みました。あくまでも使い方の「再現」ではなく、「提案」です。「こんな風に使ってみたい」、「こうしてみたら楽しいのではないだろうか」と、案を出し合って試みたものです。

たとえば、盛り付けの場合。今回取り上げた二枚の大皿に皆さんなら、何を盛り付けますか？　網をめぐらしたような、「染付網目文大皿」（平野耕輔氏寄贈）には、やはり海のものがよいでしょう。活きのよい魚のお造り、鮨などがよいかもしれません。展示では、まさに網にかかったイメージで、魚介類（サンプル）をのせてみました。

もう一枚。モダンなデザインで目をひく「染付羊歯文大皿」（平野耕輔氏寄贈）。こちらには、対照的に山のものをのせてみました。こうしてみると、量産品であり、博物館ではほとんど展示されることのなかった江戸末期の伊万里焼の大皿が、生き生きと見えてくるでしょう。決して高級な器ではありませんが、ハレの場で料理を饗する際にもちいられた実用の器です。そこに「見立て」という独特の遊び心を取り入れた、かつての日本人の余裕を垣間見ることができます。



染付網目文大皿
伊万里
江戸時代・19世紀
平野耕輔氏寄贈

染付羊歯文大皿
伊万里
江戸時代・18〜19世紀
平野耕輔氏寄贈

あなたなら何を盛りますか？

特別展「染付――藍が彩るアジアの器」
7月14日（火）〜9月6日（日）
東京国立博物館 平成館特別展示室第1・2室

観覧料：一般1,000円（700円）、大学生800円（500円）、高校生600円（300円）　※（　）内は20名以上の団体料金　※中学生以下は無料です。入館の際、年齢のわかるものをご提示ください　※障害者とその介護者1名の入館は無料。入館の際に障害者手帳などをご提示ください　※特別展「伊勢神宮と神々の美術」（7/14〜9/6）とのセット券：一般1,600円、大学生1,200円、高校生800円　**お問い合わせ**：03-5777-8600（ハローダイヤル）　**主催**：東京国立博物館　**協力**：日油株式会社、産経新聞社

取り合わせを楽しむ

続くコーナーでは、「染付」を通して膳を見直してみようというコンセプトに基づいたテーブルセッティングと、酒器、茶道具を使ったもてなしのディスプレイを試みました。二十～三十年ほど前までしょうか、銘々皿、つまり「お父さんのお茶碗」「～ちゃんのお茶碗」というのが、日本の食事には当たり前のようにありました。家族であっても、自分の器以外は使わない、という暗黙の了解があり、大人になっても、結婚しても、壊れるまで大事に使い続け、持ち主が亡くなれば、人生を共にした器も割って捨てるという独特の風習さえありました。

しかし、いまでは食生活の変化、家族構成の変化にともなって、個人の器という感覚がなくなってきているようです。膳は日本人の生活空間が和室から洋室に変化するなかで、消えていったものです。

そのうえ、膳からテーブルへと様式が変わるにつれて、時間に追われる私たちは、やきものや漆、ガラスや金属といった素材、性質、風合いの異なるさまざまな器を、季節や空間に応じて使い分ける良さと楽しみまでも、忘れつつあります。この「染付―藍が彩るアジアの器」の展覧会をきっかけに、少しでも多くの方に、古いもの、新しいもの、軽いもの、重たいものなど、さまざまなやきものの器を手にとり、使うことの楽しさ、そしてやきものから新しい世界が広がっていく魅力をお伝えできれば幸いです。（三笠景子）

染付をつかって―朝食

さわやかな夏の朝の食卓のイメージです。ガラスの小皿をアクセントに

（手前から時計まわりに）**ガラス小皿**　明治時代・19世紀／**染付花文皿**　伊万里　江戸時代・17世紀　大内田盛繁氏寄贈／**青花亀甲文碗**　中国・景徳鎮窯　明時代・15～16世紀／**青花釉裏紅麦わら文茶碗**　中国・景徳鎮窯　明時代・17世紀　広田松繁氏寄贈／**瑠璃地詩文茶碗**　中国・景徳鎮窯　明時代・17世紀　広田松繁氏寄贈／**青花網目文醤油差し**　中国・景徳鎮窯　明時代・17世紀　広田松繁氏寄贈／**五彩人物図稜花皿**　中国・景徳鎮窯　明時代・17世紀

染付をつかって―お酒のもてなし

陶器と磁器、質感のバランスと色のバランスが心地よい食卓です

（手前から時計まわりに）**青花龍文杯**　中国・景徳鎮窯　明時代・嘉靖年間（1522～1566）　広田松繁氏寄贈／**色絵山水文瓢形皿**　伊万里　江戸時代・17世紀／**青花紗綾形文十三角皿**　朝鮮時代・1839年　繭山順吉氏寄贈／**染付花卉図角徳利**　伊万里　江戸時代・17世紀　横河民輔氏寄贈／**祥瑞捻文瓢形徳利**　中国・景徳鎮窯　明時代・17世紀　広田松繁氏寄贈／**五州赤絵牡丹丸文徳利**　中国・漳州窯　明時代・17世紀　広田松繁氏寄贈／**黄瀬戸酒呑**　美濃　安土桃山時代・16世紀　広田松繁氏寄／**唐津酒呑**　唐津　江戸時代・17世紀　広田松繁氏寄贈贈

染付をつかって―お茶のもてなし

続く茶の席では、替え茶碗にやさしい風合いの染付を2種、茶入れには古染付を使いました。地肌の白もいろいろ。昼のもてなしにふさわしい軽やかな取り合わせです

（手前から時計まわりに）**古染付人物文八角茶器**　中国・景徳鎮窯　明時代・17世紀　広田松繁氏寄贈／**刷毛目三足茶碗 銘井筒**　朝鮮時代・16～17世紀　広田松繁氏寄贈／**安南写し羅漢図茶碗**　永楽保全作　江戸時代・19世紀　内藤堯宝氏寄贈／**祥瑞写し茶碗**　二代真清水蔵六作　明治時代・19世紀

◉は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品を表します。とくに表記のないものは東京国立博物館蔵です。

第62回式年遷宮記念 特別展

伊勢神宮と神々の美術

千三百年の歴史が今に伝える日本の伝統と美

古えのお伊勢参りの様子がわかる伊勢参詣曼荼羅と、伊勢斎宮の営みを今に伝える斎宮跡からの出土遺物。伊勢神宮の歴史と信仰を探るうえで重要な二つの作品に焦点をあててご紹介します。

参詣の道筋をたどってみよう 伊勢参詣曼荼羅

伊勢神宮に寄せる人々の信仰を具体的に物語る一例としてあげられるのが伊勢参詣曼荼羅と呼ばれる絵画です。参詣曼荼羅とは、十六世紀から十七世紀にかけて制作された、社寺の草創の由来や故事を示す事物とともに、人々が参詣する様子を描いた絵画のことです。社寺の経済基盤が不安定になった中世、人々の寄進を仰ぐために全国を巡った勧進聖が持ち歩き、信仰を喚起し寄進を呼びかけるために用いたと考えられています。

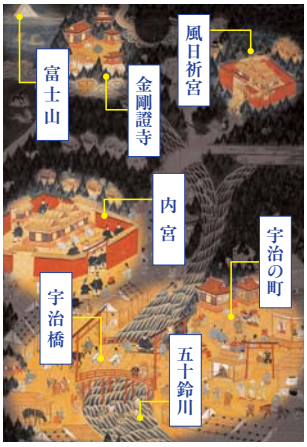
伊勢参詣曼荼羅は現在、国外も含め四点しかその存在が知られていません。今回の展覧会は、展示替えをしながらですが、それら四点全てが出品されるまたとない機会となります。多少の違いはありますがいずれの作品においても、宮川を渡って山田の町を通って外宮に参拝し、そこから高倉山に上り、間の山を下って宇治の町へ出て、宇治橋で五十鈴川を渡って内宮に参り、さらに風日祈宮に参拝して終わるという伊勢神宮参拝の一連の道中が描かれています。さらに加えて、雲を隔てて朝熊山の金剛證寺とそこから望む富士山の遠望も描いています。金剛證寺は室町時代から伊勢神宮の鬼門を守る寺として伊勢神宮と結びついて信仰された寺院です。

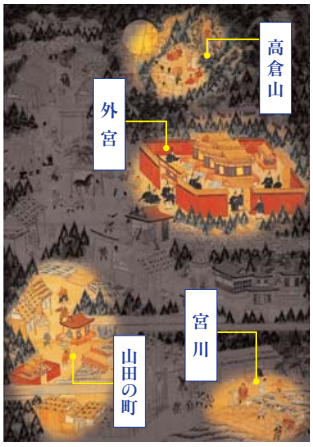
参詣道をたどっていくと、川で身を清める人、町中の店先に並べられた品を覗き込む人、熱心に礼拝をする人など、素朴な画風ながら人々の賑やかな息遣いが伝わってきます。

中世から近世の人々がどのような思いで参詣道を通って行ったのか、思いを巡らしてみるのも楽しいでしょう。

（沖松健次郎）

展示期間8月4日（火）～8月23日（日）。左記以外の日程では、他の伊勢参詣曼荼羅をご覧いただけます。





第62回式年遷宮記念 特別展 伊勢神宮と神々の美術

7月14日（火）～9月6日（日） 東京国立博物館 平成館特別展示室第3・4室

観覧料：一般1,400円（900円）、大学生1,000円（600円）、高校生700円（400円） ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料。入館の際、年齢のわかるものをご提示ください ※障害者とその介護者1名の入館は無料。入館の際に障害者手帳などをご提示ください ※特別展「染付── 藍が彩るアジアの器」（7/14～9/6）とのセット券：一般1,600円、大学生1,200円、高校生800円

お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル） ※2009年9月19日（土）～11月9日（月） 大阪歴史博物館へ巡回予定

主催：東京国立博物館、社団法人 霞会館、産経新聞社 **特別協力**：神宮司庁 **後援**：文化庁、フジサンケイグループ **協賛**：JR東海、近畿日本鉄道、JA共済

協力：神社本庁、伊勢神宮式年遷宮広報本部、東京都神社庁、皇學館大学、日本航空、日本通運

□お詫びと訂正｜東京国立博物館ニュース695号「伊勢神宮と神々の美術」の記事内、5ページ上段2行目に「沖の島」とあるのは、「沖ノ島」の誤りです。ご迷惑をおかけしましたこと、心からお詫び申し上げます。

斎王のくらしに思いをはせる 史跡斎宮跡出土品

斎宮は卜定により皇女あるいは女王が斎王として選定され、伊勢大神宮の近くに赴いて仕えた場所です。斎王は斎宮で清浄な生活をおくりながら、年に三度、三節祭あるいは三時祭と呼ばれる伊勢神宮の祭祀に奉仕することが本務とされました。ただし、近年の斎宮跡の発掘調査で、多くの祭祀遺物や大量の土師器一括廃棄跡が発見されていることから、斎王が暮らしていた斎宮においてもさまざまな祭祀が数多く行なわれていたことがわかります。斎宮には斎宮寮という官司（役所）が設置されており、平安時代初期までに発展・整備され、主神司をはじめとする十三司がおかれました。斎宮跡から出土した土器の中には当時の官司名などが書かれているものがあります。写真は、巧みな筆致で「蔵長」、「少允殿」と墨書されたものです。緑釉陰刻花文皿は、素地が焼成される前に、先端の細い工具で内面の見込中央と口縁部に法相華文を描いたもの。平安時代から千年もの間土の中に埋まっていたとは思えないほど美しい光沢を保っています。

斎宮跡は範囲確認調査の成果と保存運動のなかで、昭和五十四年（一九七九）に国史跡として指定されました。その範囲は東西二キロ、南北〇・七キロに及んでおり、これまで第百六十次に及ぶ発掘調査がなされていますが、十三司の置かれた外院をはじめ、斎王宮殿の内院、斎宮寮長官官舎の中院などの詳細な配置復元は今後の課題です。

（日高 慎）

右上：◎墨書土師器皿
史跡斎宮跡出土品　三重県多気郡明和町出土
平安時代・9〜10世紀　三重・斎宮歴史博物館蔵
皿の底に巧みな筆致で蔵長（財政を取り仕切る部署の長官）と墨書されている

左上：◎墨書灰釉皿
史跡斎宮跡出土品　三重県多気郡明和町出土
平安時代・9世紀　三重・斎宮歴史博物館蔵
皿の底に斎宮寮の公的機関である少允殿と墨書されている

右下：◎緑釉陰刻花文皿
史跡斎宮跡出土品　三重県多気郡明和町出土
平安時代・9世紀　三重・斎宮歴史博物館蔵
萌黄色の鮮やかな釉薬が美しい

伊勢参詣曼荼羅　江戸時代・17世紀　三井文庫蔵　親しみやすい素朴な画風が特徴です

次回特別展予告

御即位二十年記念特別展

「皇室の名宝―日本美の華―」

1期：10月6日（火）〜11月3日（火・祝）
2期：11月12日（木）〜11月29日（日）

天皇陛下御即位二十年を記念して開かれるこの展覧会は、皇室に伝わる御物をはじめ、宮内庁所蔵の諸作品のなかから特に名高い名品を選び、ご紹介するものです。展示は1期と2期とに分けて行なわれ、すべての作品が展示替えされます。

見どころは、狩野永徳の唐獅子図屏風、海北友松の浜松図屏風などの近世絵画の名品、さらには伊藤若冲の動植綵絵三十幅が一堂に会します。絵巻作品としては近年修復がなされた春日権現記絵が出品されます。書跡では王羲之の喪乱帖や小野道風の玉泉帖から伝藤原行成の粘葉本和漢朗詠集など、平安時代から江戸時代までの能書や宸筆の名作を選定しました。また、横山大観の朝陽霊峰はじめ鈴木長吉の百寿花瓶、川之邊一朝の菊蒔絵螺鈿棚など帝室技芸員による近代の美術の力作が展示されます。

さらに、東京で十年ぶりに公開される正倉院宝物を、ぜひお見逃しなく。

（原田一敏）

動植綵絵 芍薬群蝶図　伊藤若冲筆
江戸時代・18世紀　宮内庁三の丸尚蔵館蔵（1期展示）

菊蒔絵螺鈿棚　川之邊一朝　明治36年（1903）
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

粘葉本和漢朗詠集　伝藤原行成筆　平安時代・11世紀
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

主催：東京国立博物館、宮内庁、NHK
特別協力：NHKプロモーション、読売新聞社、日本経済新聞社

※1期、2期の展示作品の詳細や観覧料金などは、当館ホームページなどをご覧ください。
※11月12日（木）は天皇陛下御即位20年を記念して入館無料です。

表慶館 アジアギャラリー

東洋美術のミニツアーへようこそ

8月4日開館！

東洋美術の殿堂として皆様に親しまれてきた東洋館は、本年秋から耐震補強工事を行うため、六月九日（火）から休館となりました。改装後の開館は三年後の平成二十四年（二〇一二）となる予定です。

八月四日（火）からは、これまで福澤諭吉展や「Story of…」展などの特別展を開催していた表慶館の一階が東洋美術の常設展示場となります。ここに西はエジプトから東は朝鮮半島まで、東洋各地の彫刻・金属器・陶磁器などを展示します。東洋館の展示に比べればはるかに小規模ではありますが、それだけに東洋諸地域の文化の違いを容易に比較することができるようになります。つまり気軽に東洋美術の旅を楽しめるようになる、というわけです。

表慶館の東洋展示は、半年ごとに展示替えしていく予定です。ここでは最初の半年の展示を紹介しましょう。さあ、東洋美術の旅に出発です。

玄関から入ると円形のホールがあります。ホールで左に曲がると東南アジア・インド・西アジア・エジプト、右に曲がると中国、まっすぐ進むと朝鮮半島の展示となります。順路は特にありませんので、ご自由にご覧ください。

左側、最初の部屋（第8室）では、アフガニスタン、パキスタン、インド、東南アジアにかけての地域の石造彫刻と東南アジアの工芸品を展示します。仏像が中心ですが、ヒンドゥー教の神像も展示します。西洋とのつながりが深いガンダーラ彫刻（写真❶）、インド在来の造形を取り入れたマトゥラー彫刻、独自の発展をとげたカンボジア・アンコール時代の彫刻など、多様な彫刻作品をお楽しみください。東南アジアの工芸品は、半年ごとにテーマを決めて展示します。今回はタイとカンボジアの陶磁器です。

奥の部屋（第7室）は、西アジア・エジプトの展示室です。この部屋ではエジプト出土の大きな「イニ像浮彫（うきぼり）」が目を引きます。写実的な浮彫と文字が古代エジプト文明の高度に発達したさまを示します。イラク出土のヘラクレス立像は、イラクで作られたギリシャ神話の英雄の像で、当時の東西文化交渉が活発であったことを物語ります。このほかにも、光輝く金属器（写真❷）、ガラス製品などを展示します。この地域で彫刻と工芸が早くから発達していたことをご理解いただけるでしょう。

玄関ホールから右に曲がると、中国の展示室となります。最初の展示室（第1室）では、考古遺物と彫刻作品を展示します。古代中国の青銅器の優品（写真❸）とまさに「金のなる木」を造形した揺銭樹（ようせんじゅ）を常設展示とし、そのほかのさまざまな考古遺物を半年ごとに換えながら展示します。最初の半年は、色鮮やかな新石器時代の土器、最古の漢字を刻んだ甲骨（こうこつ）、美しい石を加工した玉器などを展示します。

さらに奥の第2室では、陶磁器を中心とした中国工芸の優品を展示します。八月に始まる最初の展示では、横河民輔氏（一八六四～一九四五）ご寄贈の作品から選りすぐった東晋時代から清時代までの中国陶磁器の代表作品を紹介します（写真❹）。横河氏は建築家・実業家として活躍されるかたわら、中国陶磁器を収集され、当館に約千二百点もの作品をご寄贈いただきました。氏が独自の視点で収集した体系的な大コレクションの一端をご覧ください。

玄関から入ってまっすぐ進むと朝鮮半島の展示室（第9室）に入ります。最初の半年は三国時代の冠や耳飾などの光輝く金製品と土器、高麗（こうらい）・朝鮮時代の青銅器と陶磁器の優品（写真❺）を展示します。朝鮮半島の三国時代の金製品は数が多く、また精巧な作品も少なくありません。また高麗時代の青磁は、中国の影響で始まったものですが、中国人を驚かすほど高度に発達しました。そののちの朝鮮時代の陶磁器は独自の発展を遂げるようになりました。こうした朝鮮半島の特色ある工芸品をお楽しみください。

展示室は以上の五つです。

それでは、東洋の書画や漆器、染織（織物）の展示はどうなるかご心配される方もおられましょう。これらの分野の作品は、今後、本館において特集陳列の形で展示する予定です。これらについては随時ホームページなどでお知らせいたします。

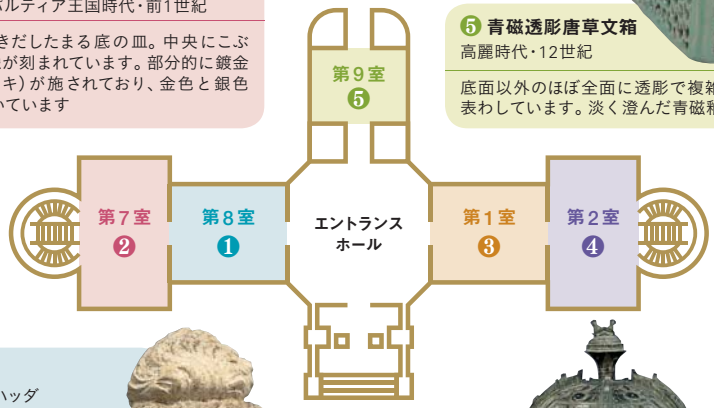
（谷豊信）

❷ こぶ牛の銀皿
伝イラン出土　パルティア王国時代・前1世紀

銀板を叩きだしたまる底の皿。中央にこぶ牛の図像が刻まれています。部分的に鍍金（金メッキ）が施されており、金色と銀色に輝いています

❺ 青磁透彫唐草文箱
高麗時代・12世紀

底面以外のほぼ全面に透彫で複雑な文様を表わしています。淡く澄んだ青磁釉が美しい



❹ ◎三彩龍耳瓶
中国　唐時代・8世紀
横河民輔氏寄贈

西方に起源をもつ器形に、中国伝統の造形、龍を組み合わせています。唐三彩の代表作として不動の評価を得ている作品

❶ 仏頭
アフガニスタン・ハッダ
3～5世紀

ハッダはアフガニスタン東部の仏教遺跡。ギリシャ・ローマ彫刻の影響が明らかに見てとれる仏像です

❸ 饕餮文瓿（とうてつもんへい）
中国　商・前13～前11世紀
坂本キク氏寄贈

先祖や神々の祭祀のとき、酒か水を供えた容器。総高60.9センチの堂々たる器に、精緻な文様が配されています

これだけは見逃せない！おすすめのこの1点

合戦絵巻の名作

重要文化財 後三年合戦絵巻（巻中）

7月28日（火）～9月6日（日） 本館3室 宮廷の美術

時は平安時代十一世紀、所は東北地方。奥州唯一の大豪族となった清原武則の孫、真衡とその叔父・吉彦秀武の間に戦が起こり、真衡の異母兄弟である家衡、清衡が秀武側につきます。ここに源義家（八幡太郎）が新しい国守として登場し、介入。真衡は陣中で病没します。義家は勝った家衡、清衡に領地を折半して与えるのですが、今度はこの二人の間で再び戦が始まります。清衡と叔父秀武は源義家に助けを求め、さらに大きな戦に発展してしまいます。

いろいろな人名が出てきてややこしいのですが、要するに当時の豪族一族の内乱です。結果は義家・清衡連合軍の勝ち。源家は東国に強固な地盤を築き、清衡は奥州三代の黄金時代をひらくことになるのですが、ストーリーの主眼は源義家の大活躍。後世の武士はたいていこの清和源氏を先祖にもつ義家の血をひくものということになっていたからです。

ここにご紹介する絵巻ができたのは序文や奥書から、南北朝時代の貞和三年（一三四七）、絵の筆者は「飛騨守惟久」であったことがわかりますが、この惟久という画家がどのような人であったかはよくわかっていません。

絵巻自体が大ぶりで豪華、詞書は高位の貴族が書写、絵の筆線は繊細さと大胆さを合わせもち、鎧武者の色は華麗です。国宝の「平治物語絵巻」を筆頭とする「合戦絵巻」というジャンルが作られるのですが、そのなかでもこの後三年合戦絵巻は堂々たる優品として著名なものです。

一方で、この画家は戦の残虐さを―むしろヒーローである義家軍のそれより―余すところなく描いています。図版は今回展示される中巻の終わり。家衡軍が立てこもる金沢の柵を義家軍が兵糧攻めにします。女性や子供が投降してくるのですが、義家は「切れ」と命じます。―投降できない方が糧食が早く尽きるから―。何の責任もない命が無残に奪われてゆきます。

斬られた母親の首と赤ちゃんの小さな手―。義家の活躍や華やかな鎧姿と同時に、いつの世の戦にも必ず含まれる「絶対の悪」さえも描ききっているその多面性に注目したいと思います。

（小林達朗）

◎**後三年合戦絵巻**（巻中） 飛騨守惟久筆 南北朝時代・貞和3年（1347） いつの世もかわらぬ戦争の惨禍

注目の特集

本館特別1室

マリア様がやってきた

特集陳列

「聖母像の『到来』」

8月4日(火)～9月6日(日)

東京国立博物館の所蔵する五四一点のキリシタン遺物は、その多くが重要文化財に指定されており、日本におけるキリスト教信仰の歴史をたどる貴重な資料となっています。当館ではキリシタン遺物に関する特集陳列をほぼ毎年実施していますが、今年は、聖母像(マリア像)を中心にご覧いただきます。

聖母像は、絵画、銅牌からメダイ、十字架、ロザリオにいたるまで、大小さまざまな遺物にみえます。日本に潜入して捕らえられた宣教師シドッチが持参していたとされる「親指のマリア」をはじめ、聖母に見立てて信仰された白磁の観音像、隠れキリシタンの摘発に用いた踏絵など、キリシタン遺物として当館に伝来した聖母像とともに、明治時代にドイツからもたらされた石膏のマリア像や、下村観山(一八七三～一九三〇)筆の聖母像などを紹介します。

(高橋裕次)

◎**聖母像(親指のマリア)** イタリア製 17世紀 長崎奉行所旧蔵品(宗門蔵保管)
衣服から親指がみえていることからこの名で親しまれています

本館特別1室

中国美術の名品たち

特集陳列

「中国書画精華」

9月15日(火)～11月8日(日)

※絵画作品は10月13日(火)に展示替えがあり、前期、後期で違う作品が展示されます

今年も、秋の中国美術の名品展「中国書画精華」を開催いたします。

「出山釈迦図」は左右に雪景山水図を伴い、三幅とも足利義満の印が押されています。足利将軍家の収蔵目録にも記載され、当時、唐絵(中国からもたらされた絵画)の最上の品格を有する作品として鑑賞されていました。その後三幅は散逸してしまいましたが、昭和二十三年(一九四八)に「雪景山水図」が当館に入り、平成九年(一九九七)に「出山釈迦図」が、平成十六年(二〇〇四)には残る「雪景山水図」が相次いで当館の所蔵となりました。幾星霜を経て再び義満の所蔵した「東山御物」の最優品が揃うことになったのです。そのため、従来は個別に国宝・重要文化財に指定されていたものが、平成十九年(二〇〇七)に三幅を一件として国宝に指定されました。

この他、当館所蔵の唐・宋・元・明・清の歴代の書画の名品を展示します。この機会に、心ゆくまでお楽しみください。

(富田 淳)

◉**出山釈迦図** 梁楷筆 南宋時代・13世紀
図中に「御前図画 梁楷」の落款があり、宮中において描かれた作であることがわかります(9月15日(火)～10月12日(月・祝)に展示)

本館14室 工芸

中国漆工オンパレード!

特集陳列

「中国漆工」

8月25日(火)～10月18日(日)

漆の樹液を材料とする工芸を漆工といいます。日本で漆器といえば、黒光りする器に金粉を使って絵を描く蒔絵などがイメージされますが、古くから中国・朝鮮半島・東南アジアにおいても漆器は作り用いられていて、しかも同じ漆を材料としながら、各地に独特の技法や表現があります。この特集では、中国の漆工を紹介します。中国には赤・黒・黄などの色漆を利用して、厚く塗り重ねた漆に文様を彫刻する彫漆、貝片を組みあわせて文様を構成する螺鈿、線彫りした文様に金箔をしずめる鎗金などといった技法があります。これらの技法を駆使して、皇帝のシンボルである五本の爪をもつ龍、うず巻きのような唐草、絵画のような花鳥や人物や宮殿が表わされます。じつに多彩な中国漆工のオンパレードをご覧ください。

(猪熊兼樹)

龍堆黄盆 中国 明時代・万暦17年(1589)
塗り重ねた漆を彫って黄色い龍を表わした盆。黄色や5本の爪は皇帝のシンボル

広寒宮螺鈿合子 中国 元時代・14世紀
月世界の宮殿である広寒宮を螺鈿で表わした器。月にすむウサギやヒキガエルもいる

本館16室　歴史資料

日本写真史のパイオニア
シリーズ「歴史を伝える」
特集陳列
# 「古写真―小川一真と近畿宝物調査―」
7月28日(火)～8月16日(日)

本館16室「歴史資料」の陳列では、これまで何度も文化財の保存に関わる歴史について、写真や古文書を用いて紹介してきました。「壬申検査」「臨時全国社寺宝物取調」「日本における写真術の伝播」「美術と写真」などをテーマにした特集では、写真がその草創期から文化財の記録手段であるとともに芸術表現であったことをご覧いただいたことと思います。

今回の特集陳列では日本写真史における先駆的写真師「小川一真」(一八六〇～一九二九)の作品に焦点をあて、明治期に行われた大規模な文化財調査のひとつ「近畿宝物調査」(一八八四～一八八八)の際に撮影された写真をご覧いただきます。

この撮影で小川一真は①乾板を使用②マグネシウムによるストロボ撮影③プラチナ・プリントに焼付け、といった当時最新の技術を駆使し、芸術写真といっても過言ではない文化財記録写真を残しました。百二十年を経てなお色褪せない見事な写真の数々をご堪能ください。

(冨坂　賢)

近畿宝物調査　奈良県「一等彫刻写真帖」

国宝　無着像写真
(鎌倉時代　奈良・興福寺蔵)
小川一真撮影
明治21年(1888)

本館16室　歴史資料

国際交流の歴史資料
シリーズ「歴史を伝える」
特集陳列
# 「世界と日本」
8月18日(火)～10月12日(月・祝)

わが国は、古代から中国大陸、朝鮮半島など東アジアの国々と密接な関わりをもちながら発展してきましたが、16世紀以降、ヨーロッパ人の来航によって新たに西洋の情報がもたらされました。江戸時代、幕府は内外の政治・経済・思想上の理由から国を鎖しました。しかし、中国とオランダについては、長崎を窓口とする管理貿易の体制が成立し、朝鮮国や琉球は、ともに使節が将軍に謁見する「通信」の国であったため、国外からさまざまな文物や情報が流入していました。こうした日本の外交政策は、政治・経済や文化などに大きな影響を与えたと考えられます。

今回は、江戸時代を中心に国際交流に関する資料を紹介します。

(高橋裕次)

吉備大臣入唐絵詞(模本)　山名繁太郎模写　明治時代・19世紀写
遣唐使・吉備真備が、唐の朝廷に才能を試された際、阿部仲麻呂の霊が鬼に化けて真備を助けたという物語などを描く

平成館企画展示室・台東区立書道博物館(新館)

趙之謙の生誕百八十年を記念して
特集陳列
# 「趙之謙とその時代」
8月4日(火)～9月27日(日)

王羲之を中心とする伝統的な書法は、清時代においても継承されました。しかし十九世紀を迎える頃から、考証学や金石学の発達に伴い、従来の法帖による書の習得に疑問がもたれ、青銅器や石碑など中国古代の文字を学ぶようになります。清時代の書は前期を帖学派、後期を碑学派と称して区別しています。

碑学派の中心的な人物が、趙之謙(一八二九～八四)。彼は北魏時代の書に触発され、「北魏書」という新しい表現を確立し、碑学派は全盛時を迎えることとなります。

この特集陳列は、趙之謙の生誕百八十年を記念し、趙之謙の作品に焦点をあてながら、清時代の書の後半を飾る碑学派の歴史を窺うものです。台東区立書道博物館との連携企画第七弾。台東区立書道博物館(新館)でも同タイトルの展示を開催します。あわせてご鑑賞ください。

(冨田　淳)

楷書五言聯　清時代・19世紀　個人蔵
従来の書法に捉われない新境地をひらき、その書は北魏書と称された

主催：東京国立博物館・台東区立書道博物館

※作品の一部に展示替えあり。
前期(8月30日まで)、後期(9月1日から)で違う作品が展示されます。

気になるこの部屋・この作品

本館2室　国宝室

地獄巡りのガイドブック
国宝 地獄草紙
8月25日(火)～10月4日(日)

仏教で説かれる地獄では生前の罪の種類や重さにより、受ける苦にも違いがあります。ここに描かれるのは、熱鉄の犬に体を食われ、鉄の鶏に頭を突き割られ脳を吸い取られる髪火流地獄、体中から虫が湧き出て骨までも食い破られる火末虫地獄、巨大な火柱を上げながら燃え盛る炎に焼かれる雲火霧地獄、降り注ぐ火炎石と煮えたぎる銅・鑞・血の入り混じった川の中で苦しむ雨炎火石地獄です。

構想力の高さと内容に比して醜悪さを感じさせない優れた描写がこの絵巻の魅力となっています。

（沖松健次郎）

◉**地獄草紙**（部分）平安～鎌倉時代・12～13世紀
火末虫地獄。虫たちが蠢く音まで聞こえてきそう

本館3室　禅と水墨画

禅僧が憧れた隠遁生活を描く
国宝 竹斎読書図
7月28日(火)～9月6日(日)

中国文化に精通していた室町時代前期の禅僧たちは、陶淵明や李白、蘇軾といった中国の文人に憧れや親近感をもっていました。彼らは、中国の元時代にとくに流行していた水墨画による書斎や草庵の図の制作を自分たちの趣味的生活の中に取り込み、十五世紀前半に水墨画の書斎図が盛んに作られます。墨の濃淡を活用して広い空間が表わされた「竹斎読書図」は、もと京都の南禅寺の禅僧が所持し、当時の名僧たちに頼んで絵に因んだ漢詩を詠んでもらったもので、書斎図の名品として知られます。

（救仁郷秀明）

◉**竹斎読書図**（部分）伝周文筆　文安4年（1447）
竺雲等連序・江西龍派等五僧題詩
小画面にもかかわらず広々とした余韻のある空間が表現されています

本館10室　浮世絵と衣装

猫に小判、鰹にまたたび?!
猫のすゞみ 歌川国芳筆
8月4日(火)～9月6日(日)

幕末の浮世絵師歌川国芳は猫好きで知られています。団扇用に描かれたこの絵は、猫好きの国芳ならではのユーモアに溢れています。大勢の客が繰り出す両国橋を望む隅田川。腰に「又たび」の文字を染め出した手ぬぐいを挟んだ猫の船頭が、杭をつかんで桟橋に船を寄せています。中には大尽猫が、その浴衣の模様は小判。それを出迎える猫芸者の着物の模様は猫の好物鮑とマタタビです。作品のタイトル枠も鰹節で囲まれています。ほかにも猫に関係した模様が散らされているので、それを見つけ出すのも面白いでしょう。

（田沢裕賀）

猫のすゞみ　歌川国芳筆　江戸時代・19世紀
三毛の芸者に虎ブチの船頭、お大尽は黒ブチ。猫好きの国芳ならではのこだわりのキャラクター

本館18室　近代美術

妖艶な味とモダンな手法
重文 麗子微笑 岸田劉生筆
9月8日(火)～11月29日(日)

大正時代の洋画界に異彩を放った岸田劉生は、愛娘をモデルに多くの麗子像を描きました。この作品は、その中でもよく知られた劉生の代表作で、八歳になる彼女を描いています。口角を上げて微笑むその表情は、レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」を思わせます。

異様に大きなおかっぱ頭とそれに比べて奇妙に小さな手。そして毛糸の質感を伝えるほど精緻に描き込まれた肩掛け。画面には、不思議な雰囲気が満ちています。そうした印象は発表当時から指摘されましたが、それこそが劉生のアヴァンギャルドな試みとして評価され、今日に至るまで人々を惹きつけているのです。

（植田彩芳子）

◉**麗子微笑**　岸田劉生筆　大正10年（1921）
「あの手や顔や、髪の形の趣味はどうでせう。…趣味が悪くはないでせうか」「そこが氏の狙ふ所でせう」。画風を批評した当時の雑誌記事より

本館12室　彫刻と金工

CT画像を公開
重文 大日如来坐像
7月22日(水)～10月12日(月・祝)

足利市所在の光得寺に伝わる厨子入りの大日如来像です。力強い表情や堂々とした体つきから、平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した仏師運慶が製作したと考えられます。大日如来は月輪を背に坐り、雲にのった金剛界三十七尊が囲むという情景的な表現がみられます。像内には、銅製の蓮華に付いた水晶製の珠、木製の五輪塔、人間の歯が納入されていることがX線写真撮影によりわかっていました。

昨年末にはX線断層撮影（CT）による調査を実施し、さらに多くの情報を得ました。その成果もあわせてご覧いただきます。

（丸山士郎）

◎**大日如来坐像**　平安～鎌倉時代・12世紀　光得寺蔵
体内には、他の運慶仏と同様さまざまな納入品が認められています

講演会

「東京国立博物館収蔵の古写真と写真師小川一真」

シリーズ「歴史を伝える」特集陳列「古写真―小川一真と近畿社寺宝物調査―」（7月28日（火）～8月16日（日）本館16室）に関連した講演会です。

日時：8月1日（土）13:30～15:00
会場：平成館大講堂
定員：380名（先着順）　聴講無料（ただし、当日の入館料は必要）
講師：岡塚章子氏（江戸東京博物館学芸員）
　　金子隆一氏（東京都写真美術館専門調査員）
　　冨坂 賢（書跡・歴史室長）

<スケジュール詳細>
13:30～13:50　冨坂 賢「東京国立博物館収蔵の古写真について」
13:55～14:15　岡塚章子氏「小川一真と近畿宝物調査について」
14:15～14:30　休憩・質問票回収
14:30～15:00　座談会　冨坂賢×岡塚章子氏、司会　金子隆一氏

「趙之謙とその時代」

台東区立書道博物館と連携して行われる特集陳列「趙之謙とその時代」（8月4日（火）～9月27日（日）平成館企画展示室）に関連した対談形式の講演です。

日時：9月5日（土）13:30～15:00　**会場**：平成館大講堂
定員：380名（先着順）　聴講無料（ただし、当日の入館料は必要）
講師：鍋島稲子氏（台東区立書道博物館主任研究員）×富田 淳（調査研究課長）

列品解説

東京国立博物館の研究員による展示解説です。

「鳥取県伯耆一宮経塚について」 8月4日（火）14:00～14:30
平成館考古展示室　講師：望月幹夫（特任研究員）

「ドイツからやってきたマリア像」 8月11日（火）14:00～14:30
本館特別1室　講師：白井克也（東洋室主任研究員）

「伝周文筆竹斎読書図について」 8月14日（金）18:30～19:00
本館20室　講師：救仁郷秀明（保存修復室長）

「後三年合戦絵巻について」 8月18日（火）14:00～14:30
本館20室　講師：小林達朗（絵画・彫刻室主任研究員）

「趙之謙とその時代」 8月25日（火）14:00～14:30
平成館企画展示室　講師：富田 淳（調査研究課長）

「蒔絵の流れ」 9月1日（火）14:00～14:30
本館13室　講師：竹内奈美子（工芸・考古室長）

「世界と日本」 9月8日（火）14:00～14:30
本館16室　講師：高橋裕次（博物館情報課長）

「飛鳥時代の古墳」 9月29日（火）14:00～14:30
平成館考古展示室　講師：古谷 毅（列品情報整備室長）

建築ツアー

「前野まさるとゆく“東京国立博物館建物探訪”」

東京国立博物館内の建物は、いずれも江戸時代から平成にかけて建てられた名建築です。前野まさる東京芸術大学名誉教授の解説で、それらの建築を見学する台東区教育委員会との連携企画です。

日時：第1回　9月12日（土）、第2回　11月7日（土）10:00～11:30
※両日とも同内容です。
定員：各回50名
会場：東京国立博物館本館、表慶館ほか
講師：前野まさる氏（東京芸術大学名誉教授）

参加料：無料（ただし、東京国立博物館の入館料が必要です）
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に催し名と希望日・参加者各人の郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・年齢・人数を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記し下記へお申込ください。
〒111-8621　東京都台東区西浅草3-25-16　台東区生涯学習センター生涯学習課文化財担当「建物探訪」係
締切：第1回　8月27日（木）必着、第2回　10月22日（木）必着
※応募者多数の場合は抽選となります。※1枚のはがきで2名まで申込可
お問い合わせ：TEL03-5246-5852（台東区生涯学習センター生涯学習課文化財担当）

東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク

東京芸術大学大学院美術研究科修士課程芸術学専攻の学生ボランティアによる作品解説です。

「扇散蒔絵手箱 ―手箱に煌めく扇面画―」
8月5日（水）、19日（水）、21日（金）、9月4日（金）、9日（水）
15:30～15:50　本館13室（本館1階エントランス集合）
解説：藤本敦美

「伎楽面 ―消えた楽舞を伝える仮面―」
8月6日（木）、11日（火）、14日（金）、23日（日）、28日（金）
15:30～15:50　法隆寺宝物館第3室（法隆寺宝物館エントランス集合）
解説：遠藤亮平

「聖母像（親指のマリア）―日本とキリスト教美術―」
8月7日（金）、9日（日）、12日（水）、15日（土）、20日（木）
15:30～15:50　本館特別1室（本館1階エントランス集合）
解説：浦澤倫太郎

「青磁茶碗　銘馬蝗絆 ―粉青色という誘惑―」
8月10日（月）、13日（木）、22日（土）、27日（木）、9月3日（木）
15:30～15:50　本館4室（本館1階エントランス集合）
解説：原 唯

「江戸時代の『世界』受容 ―地図に表れた関心―」
8月26日（水）、30日（日）、9月2日（水）、8日（火）、16日（水）
15:30～15:50　本館16室（本館1階エントランス集合）
解説：菅野仁美

「岸田劉生の描いた麗子像 ―画家が描いた自身の家族―」
9月11日（金）、15日（火）、18日（金）、23日（水・祝）、25日（金）
15:30～15:50　本館18室（本館1階エントランス集合）
解説：金 智英

「雪舟筆『四季山水図』―周文風から浙派風へ―」
9月17日（木）、19日（土）、20日（日）、26日（土）、27日（日）
15:30～15:50　本館3室（本館1階エントランス集合）
解説：和田千春

こどもたちのアートスタジオ

「根付作り」

本館10室にある根付を見学した後に、粘土を加工してオリジナル根付を制作します。

日時：8月23日（日）13:30～15:30
会場：平成館小講堂
対象：小学校3年生から高校生
※保護者の方の見学も可能です（ただし、平常展入館料が必要です）
定員：10名程度
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に、希望コースと日程「根付作り8月23日」と郵便番号・住所・参加される方のお名前（ふりがな）・学年・電話番号・保護者がご一緒の場合はその人数、「返信用表面」に、返信先の郵便番号・住所・氏名を明記し下記までお申込ください。
申込先：〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9　東京国立博物館 学芸企画部博物館教育課ボランティア室
締切：8月10日（月）必着
※締切の後、参加券をお送りします。なお、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

親と子のギャラリー

日本美術のつくり方

7月28日(火)～9月6日(日) 本館特別2室

夏休み恒例の親と子のギャラリー、今年は「日本美術のつくり方」と題して、伝統的な日本美術の5つの技法をわかりやすい工程模型でご紹介します。この展示を見れば、あなたも日本美術の「通」になれること、間違いなし！お子様だけでなく大人も十分に楽しんでいただける夏休み企画です。

2 一木造（いちぼくづくり）

日本の古い彫刻の大多数は木で造られています。ヒノキ、カヤ、クスノキ、ケヤキ、カツラなどいろいろな木が使われました。今回は木造の仏像のなかでも「一木造」と呼ばれる技法の工程を展示します。さわれる展示コーナーではさまざまな木材の手触り、重さ、においなども感じてください。

1 裏彩色（うらざいしき）

日本の古い絵は紙のほかに、絹に描かれたものがたくさんあります。絵を描いた絹の裏に紙を数枚あてて補強し、掛軸や絵巻に仕立てているのです。絹に絵を描く時、裏に色を塗ったり、金箔を押すことがあります。どのような効果があるのでしょうか。今回は、絹の裏に補強の紙を貼らない状態で絵の裏をご覧いただきます。

[裏から]顔の色を塗り、冠や胸の飾りの部分に金箔を押します

[表から]目鼻口、冠の装飾を墨で書き起こす

[できあがり]重要文化財 一字金輪像 鎌倉時代・13世紀(本館3室で7月28日～9月6日展示)

3 色絵磁器（いろえじき）

平成館で開催中の特別展「染付―藍が彩るアジアの器」で展示されている「染付」が、表面に絵を描いてから釉薬を塗って焼き上げるのに対し、色絵磁器は釉薬を塗って焼き上げた器の表面に、いろいろな色を使って絵を描き、再び窯に入れて焼き付けたものです。その絵付けの工程をご覧ください。

4 布目象嵌（ぬのめぞうがん）

何のことか想像しにくい言葉ですが、見れば一目瞭然。銅や鉄などに細かい刻みを入れて、金や銀をはめ込み、文様を作る技法です。なぜ布目と呼ばれるかは展示室で明らかにします。

刀の鐔(つば)。細かい文様は布目象嵌で描かれています。江戸時代の武士にとって刀は装身具でもありました

5 浮世絵（うきよえ）

木版多色摺りの浮世絵は、一枚の絵を完成させるために、色ごとに何枚もの版を作って絵や色を摺り重ねていきます。今回は葛飾北斎の名作「冨嶽三十六景」から、「神奈川沖浪裏」の工程を展示します。何回も摺って微妙な色を表現する、江戸時代のカラー印刷技術をご覧ください。

[主版(おもはん)]
絵の輪郭線を表わす藍色の版 モノトーンでは迫力がありません

[完成版]
色を重ねることで立体的になり、波の音が聞こえるよう

CHECK 出来上がりを探しに行こう！

親と子のギャラリーでつくり方を見たら、ホンモノの完成作品を見に行きましょう。制作工程模型を展示した作品の実物を、本館各室で展示しています。

本館 3 室　◎一字金輪像　鎌倉時代・13世紀　7月28日～9月6日展示
本館11室　◎聖観音菩薩立像　平安時代・9世紀　京都・醍醐寺蔵　7月22日～10月12日展示
本館10室　冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏　葛飾北斎筆　江戸時代・19世紀　8月4日～9月6日展示

つくってみよう日本美術！　参加型のワークショップを開催します

❶8月22日(土)11:00〜12:00 本館20室　みどりのライオン

浮世絵版画制作実演「北斎の冨士ができるまで」

木版多色摺りの浮世絵版画の名作、葛飾北斎の「冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の制作を実演します。自由にご見学ください。

協力：アダチ伝統木版画技術保存財団　参加費：無料（ただし、当日の入館料は必要です）　事前申込不要　＊当日会場にお集まりください。

アダチ伝統木版画技術保存財団の摺り師による実演

❷8月22日(土)14:00〜16:30 本館20室　みどりのライオン

ファミリーワークショップ「北斎の冨士ができるまで」

葛飾北斎の「冨嶽三十六景　神奈川沖浪裏」の制作工程を見学し、実際に摺（す）ってみよう。（体験は墨色一色のみとなります）

協力：アダチ伝統木版画技術保存財団　対象：小学校1年生以上およびそのご家族　定員：10組（応募者多数の場合は抽選）

参加費：無料（ただし、当日の入館料は必要です）　事前申込制

申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで（1）参加者全員の氏名（ふりがな）とお子さんの学年（2）郵便番号・住所（3）電話番号（FAX番号）を記入の上、下記にお送りください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「ファミリー北斎」係

FAX：03-3822-3010　電子メール：edu@tnm.jp（件名に「ファミリー北斎」とご記入ください）　締切：8月7日(金)必着

＊当落に関わらず、ご連絡いたします　＊実施日の3日前までに受講可否の返答がない場合は、通信トラブルの可能性もありますので、教育普及室に電話でお問い合わせください

❸7月28日(火)〜9月6日(日)11:00〜16:00 本館20室　みどりのライオン

ハンズオン体験コーナー「北斎の冨士を作ろう！」

ポストカード大の4色の樹脂版を使って、「北斎の冨士」を作ります。会期中、どなたでも自由に参加できます。

教育普及事業 報告｜博物館・動物園セミナー　上野の山でクマめぐり

博物館と動物園、それぞれの視点からクマを見ると、どんなことがわかるのでしょう？

平成21年(2009)5月17日、日曜日、開園前の上野動物園に小学生から大人まで、幅広い年代の30名が集合しました。「上野の山でクマめぐり」に参加する人々です。

ここ上野の山にある恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館の3館は、平成18年(2006)から毎年、国際博物館の日(5月18日)を記念して、共通の動物をテーマに3館園をめぐるツアーを行っています。今年のテーマはクマ。まず最初に動物園で生きているクマを、次に科学博物館でクマの骨の標本を観察し、最後にわが東京国立博物館でクマをモチーフにした作品を見て人とクマの関わりを探ろうという企画です。

生きているクマ── 恩賜上野動物園

上野動物園の動物解説員・小泉祐里さんが参加者をホッキョクグマのコーナーへと案内します。大きな肉がプールの中に投げ込まれると、クマは水の中に飛び込んですぐさま肉をキャッチ。首が長く頭が細いホッキョクグマは水の抵抗が少なく、泳ぎに適した体型なのだそうです。岩山の上で肉を食べるクマを観察してみると、肉を噛み千切るとそのままごくりと飲み込んでいます。

次は、ツキノワグマです。牧草やコマツナを奥歯ですりつぶすように噛んで食べています。クルミを夢中に食べているクマもいました。奥歯で噛み砕いては殻を上手に割って中のおいしいところを器用に食べています。

マレーグマはどうでしょう。鋭い爪を使って木に登り、高いところにある果物をとったり、管に入った蜂蜜を長い舌で上手になめたり、なるほど、食べ方ひとつとってもクマによってこんなに違うのですね。

クマの骨── 国立科学博物館

動物園の次は国立科学博物館です。講義室には、7種類のクマの頭骨が並べられていました。ここでは動物研究部研究員の川田伸一郎さんのお話をうかがいました。歯の形を比べてみると、肉を食べるホッキョクグマは前の鋭い歯が発達しており、クルミや草を食べるツキノワグマは奥の歯が発達していることがわかります。動物園でクマの動きを見たばかりなので、あごの骨や足の関節のつくりなどについても、大変興味深く聞くことができました。

お昼は上野のれん会の老舗の特製お弁当をいただき、午後はいよいよ東京国立博物館へと向かいます。

美術のなかのクマ── 東京国立博物館

東京国立博物館では、教育講座室の神辺知加研究員がクマの登場する作品の解説をしました。本館6室「武士の装い」には、クマの毛で覆われた甲冑「熊毛植二枚胴具足」が展示されています。クマは国内では最大最強の動物です。この甲冑を注文した武将は自分を強く見せたかったのでしょう。ところで、この黒い毛はほんとうにクマの毛なのか、科学博物館の川田さんにあらかじめ分析していただきました。表面のうろこ状の模様を、クマやヤクの毛と比較してみたのですが、ぴたりと一致するものはなかったとのことでした。結論は今後の調査を待ちたいと思います。

本館10室「浮世絵と衣装」では、金太郎を描いた浮世絵を見ました。金太郎がクマと相撲をとって勝ったという話は有名ですが、この金太郎はなんと手のひらにクマを乗せています。

「ツキノワグマの爪は大きく曲がっているので物を引っ掛けることができます。扇を持つクマの手はとてもリアルに描かれていますね。クマはかかとまでしっかりと地面につけて歩くので後ろ足2本で立ち上がることができるのです。だから立っているのは正解。ただし、左足のうしろに突起がありますね。これは犬や猫などの爪先立ちで歩く動物の足の形ですから、間違いです」。ここでも、動物園の小泉さんからたいへん興味深いコメントをいただきました。その後、東洋館で中国の鏡や青磁の壺を見て、ツアーは終了しました。

まったく異なる3つの視点からのアプローチ。上野の山ならではの3館連携企画に、参加された皆さんは満足された様子でした。　（小林 牧）

泳ぎが得意な体型のホッキョクグマ

牧草を美味しそうに食べるツキノワグマ

科学博物館ではクマの骨を見ました

黒い毛におおわれた「熊毛植二枚胴具足」を熱心に見る参加者のみなさん

熊を掌に乗せる金太郎　鳥居清長筆　江戸時代・18世紀

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

◆納涼東博寄席2009

夏休みのお楽しみ！　博物館 de 寄席

日時　8月30日（日）開場13:00 開演13:30
会場　平成館大講堂
出演　金原亭馬生「死神」「稽古や」
　　金原亭馬治（一席）、金原亭馬吉（一席）、恩田えり社中（寄席囃子）
料金　2,000円 全席自由
※当日は、公演のチケットで、平常展をご観覧いただけます。

◆東京国立博物館コンサート 鷲見恵理子ヴァイオリンコンサート

日本ヴァイオリン界のサラブレッドが紡ぐ名器・グァルネリウスによる奏で

日時　9月27日（日）開場14:30 開演15:00
会場　平成館ラウンジ
出演　鷲見恵理子（ヴァイオリン）
　　鷲宮美幸（ピアノ）
曲目　エルガー：愛の挨拶／クライスラー：美しきロスマリン／クライスラー：ウィーン奇想曲／クライスラー：前奏曲とアレグロ（プニャーニのスタイル）／ガーシュイン：ポギーとベス組曲／ポンセ：エストレリータ／ドビュッシー：美しき夕暮れ／パガニーニ：カンタービレ op.17／サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン op.20
料金　一般 4,500円（全席自由）
　　友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,500円
※当日は、コンサートチケットで、平常展をご観覧いただけます。
主催　東京国立博物館、サロン・ド・ソネット

チケットのお求め方法

●**当館正門観覧券売場でのチケット販売**
開館日の9:30～閉館30分前まで

●**電話予約販売**
申 込 先　東京国立博物館イベント担当 TEL 03-3821-9270
受付時間　月曜日～金曜日の9:30～17:00（祝休日は除く）
引　　換　公演当日、9:30～当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡しします。
お問い合わせ　東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL03-3821-9270
　　月曜日～金曜日の9:30～17:00（祝休日は除く）
※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。
※お車でのご来館はご遠慮ください。

◆東京国立博物館 耐震補強工事に伴う閉館のお知らせ

安全で便利な東洋館へ

二〇〇九年六月八日から、東洋館は耐震補強工事のため休館しています。今回の改装の最大の目的は、東洋館の壁を補強して、地震に耐える安全な東洋館にすることです。

これにあわせて、地下にも展示室を設け、クメール彫刻などをより多く展示します。また、中央の吹き抜けにエレベータを設置します。これまで東洋館では、北と南の展示室を半階ずつ階段で上ってめぐっていただいていましたが、工事の後は、地下一階から地上三階まで、お目当ての階にエレベータで気軽に移動できるようになりますし、車椅子での観覧も容易になります。

展示室を増やして、展示室の配分を変えるとともに、展示の手法も工夫を凝らしたものにしようと、今も検討を重ねているところです。詳しくは、改めてご紹介の機会があるでしょう。

3年後、より安全で便利になった東洋館に東洋美術が再び一堂に会する日を、お楽しみに。

（白井克也）

◆10月3日（土）は留学生の日です

日本の学校に所属する留学生、ALT（外国語指導助手）および、その同行者は平常展が無料となります。留学生のためのガイダンスやお茶会などさまざまなイベントも実施されます。お誘い合せのうえ、ぜひご来館ください。

チケットプレゼントのお知らせ

◆特別展「皇室の名宝―日本美の華―」招待券プレゼント

本誌5ページで紹介した御即位20年記念特別展「皇室の名宝―日本美の華―」（1期10月6日（火）～11月3日（火・祝）、2期11月12日（木）～11月29日（日））の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントします。締切は9月18日（金）必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに住所、氏名（ふりがな）、性別、年齢、職業、ならびにこの号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712　台東区上野公園13-9　東京国立博物館
　　広報室「ニュース8・9月号」プレゼント係

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年（入会月の翌年同月末日まで）有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費
　特別会員　100万円以上
　維持会員　法人　20万円
　　個人　5万円

主な特典
●特別展の内覧会にご招待
●東京国立博物館ニュースの送付

＊賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
＊お問い合わせ
東京国立博物館総務部　賛助会担当
TEL 03-3822-1111（代）

東京国立博物館賛助会員　2009年6月20日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社精養軒 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社毎日新聞社 様
株式会社大林組東京本社 様
株式会社ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社ミロク情報サービス 様
読売新聞東京本社 様
三菱商事株式会社 様
凸版印刷株式会社 様
ブルガリ ジャパン株式会社 様
東芝国際交流財団 様
日本写真印刷株式会社 様

維持会員

東京電力株式会社 様
朝日新聞社 様
株式会社東京放送 様
三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
株式会社東京美術 様
薮内 匡人 様
服部 禮次郎 様
株式会社鶴屋吉信 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
和田 喜美子 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨファニチャー株式会社 様
星埜 由尚 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術藪本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
牧 美也子 様
髙瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
塚越 香 様
高木 美華子 様
日本ハーデス株式会社 様
山岡 ユウ子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
山田 泰子 様
近代書道研究所 様
田村 久雄 様
日本畜産興業株式会社 様
髙橋 徹 様
栄田 陸子 様
絹村 安代 様
髙橋 良守 様
岡田 博子 様
臼井 生三 様
津久井 秀郎 様
川澄 祐勝 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
石川 公子 様
池田 慶子 様
株式会社 東京書芸館 様
青山 千代 様
藤﨑 英喜 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
友景 紀子 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
高木 聖鶴 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
シチズンホールディングス株式会社 様
野澤 智子 様
有賀 浩治 様
吉田 幸弘 様
野﨑 弘 様
坂田 浩一 様
池谷 正夫 様
池谷 徳雄 様
脇 素一郎 様
髙谷 光宏 様
青山 道夫 様
杉原 健 様
木谷 騏巳郎 様
木村 則子 様
インフォコム株式会社 様
渡久地 ツル子 様
汐崎 浩正 様
関 哲夫 様
堤 勝代 様
山下 由紀子 様
平井 千惠子 様
秦 芳彦 様
田中 千秋 様
学校法人 大勝院学園 様
小西 晫也 様
澁谷 洋志 様
山下 照夫 様
小澤 祐子 様
仙石 哲朗 様
中井 伸行 様
髙見 康雄 様
田中 望 様
三井 速雄 様
坂詰 貴司 様
吉田 靖 様
有限会社 システム設計 様
松本 雅彦 様
明珍 素也 様
伊藤 喜雄 様
井上 雄吉 様
狩野 祐光 様
大森 雅子 様
鈴木 宗鶴 様
折越 卓哉 様
渡辺 恭昌 様
平野 京子 様
安田 和正 様
細川 要子 様
鈴木 幸一 様
武藤 剛志 様
秋元 文子 様
土師 詔三 様
上塚 建次 様
櫛田 良豊 様
株式会社 インターネットイニシアティブ 様
鏡 賢志 様
野口 圭也 様
村木 久晃 様
高久 真佐子 様
公和図書株式会社 様
㈱小西美術工藝社 様
小川 春夫 様
陶山 哲夫 様
平山 利恵 様

〈ほか60名3社、順不同〉

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

＊建物の改修等のため、京都国立博物館平常展示館、東京国立博物館東洋館など一部展示館を閉館しています。

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで

〈郵便振替でのお申し込み〉

＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレスを楷書でご記入ください

＊振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートが届くまで保管しておいてください

＊振替手数料はお客様の負担となります

＊ご入金確認日より会員証、パスポートがお手元に届くまで2週間程かかります

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会

口座番号00160-6-406616

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート

口座番号00140-1-668060

＊振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース

口座番号 00100-2-388101

＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

＊振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

＊振替手数料はお客様のご負担となります

＊次号より送付ご希望の場合、締切は9月10日です

東京国立博物館メールマガジンのご案内

特別展・各種催し・展示替・ウェブ更新などの情報をいち早くお届けします ＊ご登録はhttp://www.tnm.jp/から

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30〜17:00、2009年11月までの特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2009年3月28日(土)〜9月の土・日・祝・休日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)。

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日〜1月1日)。8月10日(月)は開館。

平常展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

＊( )内は20名以上の団体料金

＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

＊満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

＊お申し込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

TOPICS

◆海外展「サムライの美術—東京国立博物館精選」

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタアナ市のバウワーズ博物館で、4月19日(日)〜6月14日(日)東京国立博物館の所蔵品を通して日本の武家文化を紹介する展覧会「サムライの美術—東京国立博物館精選」が開催されました。

展示作品は、国宝「太刀 一文字助真」や重要文化財「男衾三郎絵詞」などの名品を含む当館の所蔵品に、プライスコレクションの屏風一件を加えた八十一件。日本文化への関心が高まるなか、一万八千人余りの方にお越しいただきました。

「サムライの美術」展会場展示風景

◆海外展「土偶展」

文化庁では日本の優れた文化財を諸外国に紹介することにより、日本文化への理解を深め、国際親善をはかることを目的として、毎年、海外で日本古美術展を開催しています。今年度は、イギリス・ロンドン大英博物館で9月10日(木)〜11月22日(日)に縄文時代の人々の精神世界や信仰の形を現す土偶の展覧会を、当館および大英博物館との共催で開催する予定です。青森県亀ケ岡遺跡出土の遮光器土偶(重要文化財)など当館所蔵品五件を含む六十七件が出品されます。

また、この「土偶展」は平成二十一年(二〇〇九)十二月中旬から二月に当館でも帰国展が開催される予定です。

◎遮光器土偶
青森県亀ケ岡遺跡出土(縄文時代晩期)

◆TNM&TOPPANミュージアムシアター上映作品のお知らせ

VR「故宮 紫禁城 天子の宮殿」

8月7日(金)〜9月27日(日)の金・土・日・祝日・振替休日

10時、11時、12時、14時、15時、16時

※当日予約制、本館エントランスにて受付

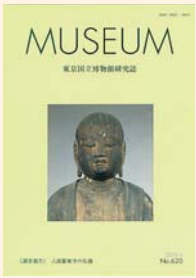
清王朝全盛期(一六六〇〜一七九〇年代)の華やかな紫禁城を再現した大型VR作品です。紫禁城の中心太和殿(たいわでん)などの建物をめぐるバーチャルツアーをお楽しみください。

制作・著作:故宮博物院/凸版印刷

紫禁城の中心、太和殿

◆MUSEUM620号(平成21年6月15日発行)の掲載論文

『調査報告』六波羅蜜寺の仏像」浅見龍介(教育普及室長)



◆「東京国立博物館 東洋美術100選」の英語版が出版されました

美しい図版とわかりやすい解説で好評をいただいておりました「東洋美術100選」の英語版が出版されました。西はエジプトから東は韓国まで広くアジア諸地域の美術を網羅した東洋館ならではの企画です。海外からのお客様の来館記念に、または海外のご友人へのプレゼントに最適です。お求めは、当館本館地下1階ミュージアムショップで。定価一、二〇〇円。

◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

特別展覧会「シルクロード 文字を辿って—ロシア探検隊収集の文物—」

7月14日(火)〜9月6日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別展「聖地寧波—日本仏教1300年の源流〜すべてはここからやって来た〜」

7月18日(土)〜8月30日(日)

〈九州国立博物館〉

興福寺創建1300年記念「国宝 阿修羅展」

7月14日(火)〜9月27日(日)

 表紙 **猫のすゞみ**(部分) 歌川国芳筆 江戸時代・19世紀 ※本誌10ページ参照

東京国立博物館ニュース　第696号　平成21年8月1日発行（隔月1回偶数月発行）　編集／東京国立博物館 広報室　©東京国立博物館
発行／東京国立博物館　〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9　TEL 03-3822-1111（代表）　＊ホームページ〈URL〉http://www.tnm.jp/　独立行政法人国立文化財機構ホームページ〈URL〉http://www.nich.go.jp　制作／美術出版社

東京国立博物館2009年8月・9月の展示・催し物

2009年 8月

1 SAT	時間延長（18:00まで）　**月例講演会**「東京国立博物館収蔵の古写真と写真師小川一真」13:30 平成館大講堂＊1 11:00　13:30　14:00　15:00
2 SUN	時間延長（18:00まで） 14:00　14:30
3 MON	休館日
4 TUE	高校生のための連続講座「日本の伝統もよう」10:00 平成館小講堂＊2 **列品解説**「鳥取県伯耆一宮経塚について」14:00 平成館考古展示室 15:00
5 WED	「扇散蒔絵手箱」15:30 本館13室
6 THU	14:00　「伎楽面」15:30 法隆寺宝物館第3室
7 FRI	夜間開館（20:00まで） 15:00　「聖母像（親指のマリア）」15:30 本館特別1室
8 SAT	時間延長（18:00まで） **記念講演会**「伊勢の神宮と日本人」「伊勢神宮と式年遷宮」13:30 平成館大講堂＊3 14:00　14:30
9 SUN	時間延長（18:00まで） 13:30　「聖母像（親指のマリア）」15:30 本館特別1室
10 MON	「青磁輪花茶碗　銘馬蝗絆」15:30 本館4室
11 TUE	**列品解説**「ドイツからやってきたマリア像」14:00 本館特別1室 「伎楽面」15:30 法隆寺宝物館第3室
12 WED	狂言「蚊相撲」「神鳴」「蟹山伏」公演13:30 平成館大講堂＊4 14:00　14:30　14:30 「聖母像（親指のマリア）」15:30 本館特別1室
13 THU	14:00　14:30　「青磁輪花茶碗　銘馬蝗絆」15:30 本館4室
14 FRI	夜間開館（20:00まで） **列品解説**「伝周文筆竹斎読書図について」18:30 本館20室 14:30　「伎楽面」15:30 法隆寺宝物館第3室
15 SAT	時間延長（18:00まで） ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」13:00 平成館小講堂＊5 11:00　13:30　15:00　「聖母像（親指のマリア）」15:30 本館特別1室
16 SUN	時間延長（18:00まで） ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」13:00 平成館小講堂＊5 12:30, 14:00　14:00　14:30　14:30
17 MON	休館日
18 TUE	**列品解説**「後三年合戦絵巻について」14:00 本館20室 15:00
19 WED	「扇散蒔絵手箱」15:30 本館13室
20 THU	14:00　14:30　「聖母像（親指のマリア）」15:30 本館特別1室
21 FRI	夜間開館（20:00まで） 15:00　「扇散蒔絵手箱」15:30 本館13室
22 SAT	時間延長（18:00まで）　浮世絵版画制作実演「北斎の冨士ができるまで」11:00 本館20室＊6　ファミリーワークショップ「北斎の冨士ができるまで」14:00 本館20室＊6 14:00　「青磁輪花茶碗　銘馬蝗絆」15:30 本館4室
23 SUN	時間延長（18:00まで） 13:30　14:00　「伎楽面」15:30 法隆寺宝物館第3室
24 MON	休館日
25 TUE	高校生のための連続講座「日本の伝統もよう」13:00 平成館小講堂＊2 **列品解説**「趙之謙とその時代」14:00 平成館企画展示室
26 WED	14:00　14:30　「江戸時代の『世界』受容」15:30 本館16室
27 THU	14:00　14:30　「青磁輪花茶碗　銘馬蝗絆」15:30 本館4室
28 FRI	夜間開館（20:00まで） 14:30　「伎楽面」15:30 法隆寺宝物館第3室
29 SAT	時間延長（18:00まで） 14:00
30 SUN	時間延長（18:00まで）　納涼東博寄席　13:30 平成館大講堂＊7 14:00　「江戸時代の『世界』受容」15:30 本館16室
31 MON	休館日

=ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる浮世絵展示ガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる樹木ツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所：平成館考古展示室入口
=ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
=ボランティアによる茶会、集合場所：本館1階エントランス（一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始1時間前に集合場所で整理券配布）
=ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所：本館1階エントランス（先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布）
=ボランティアによるたてもの散歩ツアー、集合場所：本館1階エントランス（9月より、第3土曜日は手話通訳付き）

2009年 9月

1 TUE	**列品解説**「蒔絵の流れ」14:00 本館13室 15:00
2 WED	14:00　「江戸時代の『世界』受容」15:30 本館16室
3 THU	14:00　「青磁輪花茶碗　銘馬蝗絆」15:30 本館4室
4 FRI	夜間開館（20:00まで） 15:00　「扇散蒔絵手箱」15:30 本館13室
5 SAT	時間延長（18:00まで）　**月例講演会**「趙之謙とその時代」13:30 平成館大講堂＊8　11:00　13:30　14:00　15:00
6 SUN	**伊勢神宮と神々の美術展**　時間延長（18:00まで）　14:00　14:30 **染付―藍が彩るアジアの器展**　**親と子のギャラリー「日本美術のつくり方」**
7 MON	休館日
8 TUE	**列品解説**「世界と日本」14:00 本館16室 「江戸時代の『世界』受容」15:30 本館16室
9 WED	14:30　14:30　「扇散蒔絵手箱」15:30 本館13室
10 THU	14:00　14:00　14:30
11 FRI	14:30　「岸田劉生の描いた麗子像」15:30 本館18室
12 SAT	時間延長（18:00まで）　台東区教育委員会連携事業「前野まさるとゆく“東京国立博物館建物探訪”」10:00 本館＊9　14:00　14:30
13 SUN	時間延長（18:00まで）
14 MON	休館日
15 TUE	15:00　「岸田劉生の描いた麗子像」15:30 本館18室
16 WED	14:00　「江戸時代の『世界』受容」15:30 本館16室
17 THU	14:00　14:30　「雪舟筆『四季山水図』」15:30 本館3室
18 FRI	15:00　「岸田劉生の描いた麗子像」15:30 本館18室
19 SAT	時間延長（18:00まで）　11:00　13:30　14:00　15:00 「雪舟筆『四季山水図』」15:30 本館3室
20 SUN	時間延長（18:00まで）　12:30, 14:00　14:00　14:30　14:30 「雪舟筆『四季山水図』」15:30 本館3室
21 MON	時間延長（18:00まで）　**平常展無料観覧日**
22 TUE	時間延長（18:00まで）
23 WED	時間延長（18:00まで） 14:30　「岸田劉生の描いた麗子像」15:30 本館18室
24 THU	休館日
25 FRI	14:30　「岸田劉生の描いた麗子像」15:30 本館18室
26 SAT	時間延長（18:00まで） 14:00　「雪舟筆『四季山水図』」15:30 本館3室
27 SUN	時間延長（18:00まで） ♪鷲見恵理子ヴァイオリンコンサート15:00 平成館ラウンジ＊10 14:00　「雪舟筆『四季山水図』」15:30 本館3室
28 MON	休館日
29 TUE	**列品解説**「飛鳥時代の古墳」14:00 平成館考古展示室
30 WED	14:00

=ボランティアによる英語ガイド（本館ハイライト）、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ（勾玉作りコース、事前予約制（抽選10名）、申込は締め切りました）
=ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ（根付作りコース、事前予約制（抽選10名）、詳細は本誌11ページをご覧ください）
=芸大ボランティアによるギャラリートーク、詳細は本誌11ページをご覧ください
=黒田記念館開館日、木曜・土曜13:00～16:00（夏期（7/11～9/3）は休館）
=ミュージアムシアター「江戸城」（～8/2）「故宮」（8/7～9/27）上映　10:00　11:00　12:00　14:00　15:00　16:00　各回30名、受付場所：本館1階エントランス（詳細は本誌15ページをご覧ください）

＊1 シリーズ「歴史を伝える」特集陳列「古写真―小川一真と近畿社寺宝物調査―」関連事業、詳細は本誌11ページをご覧ください　＊2 事前申込制　申込は締め切りました　＊3 特別展「伊勢神宮と神々の美術」関連事業、事前申込制、申込は締め切りました　＊4 事前申込制　申込は締め切りました　＊5 事前申込制　申込は締め切りました
＊6 親と子のギャラリー「日本美術のつくり方」関連事業、詳細は13ページをご覧ください　＊7 有料イベントです。詳細は本誌14ページをご覧ください　＊8 特集陳列「趙之謙とその時代」関連事業、詳細は本誌11ページをご覧ください
＊9 事前申込制　詳細は本誌11ページをご覧ください　＊10 有料イベントです。詳細は本誌14ページをご覧ください
＊上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください
＊屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります